

2019 年度第 1 回教育課程編成委員会議事録

(観光科・鉄道科・テーマパーク科・エアライン科・語学集中科・デュアル科)

日時	2019 年 8 月 2 日(金)	場 所	8 号館 3F ホテル実習室	進 行	湊	記 録	檜崎他
出席者	企業側(7名)敬称略・順不同						
	学科	企業名・団体名				名前	
	観光分野	(一社)日本旅行業協会 関東支部千葉県地区委員会				児玉 靖生	
	観光科	東日観光(株)				酒井 大之	
	鉄道科	(株)日本旅行				只隈 修一	
	テーマパーク科	(株)東京ドーム				上村 純子	
	エアライン科	(株)旅行綜研				石井 光彦	
語学集中科	(一財)成田国際空港振興協会				岸本 達也		
デュアル科	(株)エコーパートナーズ				山田 将人		
	学校側(9名)						
	矢口、矢野、立石、中山、石神、茂野、湊、栗原、檜崎						
議 事 録	[全体会]						
	<p>進行湊が委員会を開会した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新任委員紹介(湊) 一般社団法人日本旅行業協会関東支部千葉県地区委員会 委員長 児玉 靖生様 株式会社エコーパートナーズ 課長 山田 将人様 ・校長挨拶(矢口) 国の動きとして、昨年は「専門職大学」、今年度は「高等教育の修学支援新制度」と非常に動きが顕著である。修学支援の新たな制度は経済的理由で進学を諦めることがないように給付型奨学金と入学金・授業料減免を2本柱とした施策である。当校も先月末に支援措置の対象となるため県に申請を行った。職業実践専門課程認定に教育課程編成委員会をはじめとして学内の取組、適切な情報公開等、しっかりと行っていくことが大事であり、真摯に取り組んでいきたい。 						
	全体会議題「業界・企業の最新情報」						
	<p>児玉氏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020年オリンピック・パラリンピックを前に千葉県内でも各国の事前キャンプが行われる予定。前段としての国際大会のキャンプ地としても千葉が選ばれており、来年に向けて、輸送・宿泊関係の混雑が予測される。 ・インバウンドでは韓国から700万人、中国から800万人と大半を占めているが、現在の韓国情勢等もあり、懸念される。 ・バス会社のコンプライアンスが厳しくなっている。 ・旅行会社では対面型のカウンター販売からインターネットを利用するWEB業態を主力としてきている。 <p>酒井氏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020年オリンピック・パラリンピックに向けて、早くも宿やバスが押さえられてきている。バスに関しては国が抑えている部分もある。 ・団体旅行から個人旅行が増えていくなかで楽天、じゃらん、ExpediaなどOTA(Online Travel Agent)が主力になっており、カウンター販売が激減している。インバウンドにもExpedia台頭の動きがある。 <p>只隈氏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020年7月10日~9月9日はバス手配が不可となっているので、研修旅行やその他学校で例年手配しているものにも影響が出る可能性があるので注意が必要。 ・当該期間に関しては、当社も団体旅行についてもバスを使わない方法を検討しなくてはいけない。 ・どの業種でも話に出るのだが、中堅層がいないと聞く。若手育成も大変難しく、3年勤務し、やっと形が出来てきた時期に辞めてしまう。 						

上村氏

- ・2020年のオリンピック・パラリンピックの影響を受け、1年間は例を見ないスケジュールになると想定する。テーマパークとして直接の絡みはないが、お客様の動きに対応していきたい。
- ・東京都の最低賃金が1,000円を超えた。(都内飲食店では現在も1,000円では働き手を探すのが困難な状況となっている。)東京都寄りの千葉県に住んでいる人はこの最低賃金アップを受けて、東京での就業を考えるなど人手不足となる可能性もあるのではないかと。

石井氏

- ・旅行会社への添乗員の派遣、航空会社への派遣を主に行っている。2020年のオリンピック・パラリンピックによる国内バス手配が不可となることで、添乗員活用について各社へ伺っているところ。
- ・クルーズ需要は非常に高まっており、アウトバウンド・インバウンドの双方向で集まっている。クルーズ対応の添乗員の育成を行っている。
- ・2020年はバス確保ができては運転手の確保が困難となる見込み。

岸本氏

- ・空港の案内は、「人手をかけずにいかにご案内できるか」となっており、情報端末を各所に配置し、案内対応する。加えてTV電話による対応も行い、補完する。
- ・空港トイレについては、全て改修完了しており、ハラルフードを提供する店舗も増えている。また、精神障がいのある方がパニックに陥った時に対応できるスペースの確保など2020年に向けて、「万人への対応」に向けて準備が進んでいる。
- ・トランジット旅行客等に対して、交通費のみを負担していただき、ボランティアガイドによる成田空港周辺の観光ツアーを実施している。
- ・事務方ではオリンピック・パラリンピック対応を行う業務が増えており、現在は人員不足となっているが、オリンピック・パラリンピック以降の経済情勢の落ち込みが予想されるため、積極的な採用も難しく、苦慮している。
- ・事務方ではオリンピック・パラリンピック対応を行う業務が増えており、人員不足となっているが、2020年以降のことが不透明なため、採用も難しく苦慮している。

山田氏

- ・成田空港で主にANAの地上支援を行っている。インバウンド対応のため、新たな航空会社受入要請があるものの人手不足のため、受け入れ困難。人手不足への対応として、保安検査の機械化、機体移動に利用しているトーイングカーのラジコン運用、リムジンバスの無人化等、一部運用/検討が始まっている。
- ・グランドハンドリングの現場で、技能実習生の活躍も進んでいるが、最低賃金アップの影響が懸念される。
- ・成田空港の第三滑走路増設された場合も人手不足が懸念される。技能実習生や再雇用者等も視野に入れ検討していく必要がある。
- ・航空業界では飲酒問題が取りざたされているが、グランドハンドリング従事者にも飲酒チェックを行っている。

業界の皆様方から有益な情報を伺うことができた。

学内では学生が自ら考えて取り組む卒業研究の授業があり、各ゼミの優秀な学生については、卒業研究代表者プレゼンテーションを行う予定である。今までは学内のみで行っていたが、機会があれば委員の皆様方にも聴講いただくと学生の励みになるため、検討していただきたい。

(卒業研究代表プレゼンテーション:2020年2月21日)

[分科会] 観光科・鉄道科・デュアル科

進行矢野が分科会を開会した。

1. 2019年度就職状況(立石)

観光科 6名/10名(男子1名/女子5名)60%

鉄道科 10名/16名(男子7名/女子3名)62.5% 全体 61.5%

【就職先:一例】

観光 JTB-CWT、JBN、日本旅行サービス、TEI

鉄道 東急電鉄、JR東海、びゅうトラベルサービス、東武インターテック、JR東日本サービスクリエイション

※2018年度卒業生 退職者1名(バス会社就職)報告あり。他の卒業生に関しては順調。

2. 2019 年度カリキュラムを前期実施してみたの状況と課題報告

矢野： 昨年の分科会で「人間力」というお話を頂いた。現状 1 年前期は国家試験対策の授業がメインとなっているが、その中で「観光イベントプランニング」を取り入れた。内容としては、千葉市が主催している「千葉あそび」とのタイアップ。先日プレゼンを実施したが内容に関しては次回以降再度検討。今回の内容だと実現に向けての交渉などもなく、想像の話しでしか提案ができなかった。次回以降の構想として主催者側(例、農家など)と直接内容の交渉をして、より具体的な話を詰めていく事で、千葉市側に実現可能な案をプレゼンすると共に、より実際の仕事内容に沿った授業にしたいと考えている。「ニュースディスカッション」は後期からの始動となるが、カリキュラムの基の部分である「人間力」を取り入れた科目である。最近の学生はスポーツ・芸能など自分の興味のある部分の話はできるが、その他の時事問題への関心が薄い。そういうニュースにも目を向け、話し合う場を設けることで人間力の育成という部分につながるのではないかと考える。

また、科目の 1 つとして、鉄道科の授業内に「鉄道バリアフリー」を取り入れている。サービス介助士の資格試験が実施されているが、企業と連携し、実践的な学びができるという部分では一定の成果はあるのではないと思う。

3. 2020 年度カリキュラムを策定するにあたっての意見収集

酒井氏： 「ニュースディスカッション」の授業内容について確認したい。

矢野： 例えば新聞記事で気になる物を取り上げ、グループ分けをし、ディスカッションをする。先ほども話したが、自分の興味のある部分には強いがそれ以外の部分に対応する力が弱い。私が考える「人間力」の一番はコミュニケーション能力、臨機応変な対応を取れることだと思う。

酒井氏： 面白い授業だと思う。

矢野： 以前は似たような授業がカリキュラムに組み込まれていた。若者のニュース離れは顕著に出ている。先日の選挙の投票率などを見ても明らかだが、やはり新聞・ニュースに対して興味を持つという事は大切である。

児玉氏： 「観光イベントプランニング」とはどこまでの範囲でやっているのか。

矢野： イベントの作り方の説明から入り、I では、オープンキャンパスに来た高校生に対して「この地域で行きたいお店を紹介する」という内容を考えさせる。

II では千葉あそびの実際にあるプランを見て、事前に課題などを出し、実際に行ってみたプランに関してプレゼンする。III では千葉あそびのプランを自分たちで作って発表。IV は今までの知識を生かし、卒業旅行を企画するという内容で進める予定。

III に関しては次年度内容を改善していく予定である。

児玉氏： 散漫なカリキュラムに見えるが、話を聞くと、現場に出て働くにはこのくらい色々な内容をやらないといけないと思った。特に「ニュースディスカッション」については今後の為にも必要な科目だと思う。会社でも 1・2 年目の若手社員に対して新聞を使って営業時の話題を作る等の実践をしている。新聞を読む子と読まない子では考え方も大きく異なるし、上の世代の人と話す時にも話の幅が広い子はニュースや新聞を読んでいる子である。そういう所からも信頼を勝ち取るなどプラスの部分が多い。旅行以外の仕事でもこれは共通すると思う。

矢野： 昔あったカリキュラムで、今もあつたら良いと思う内容はあるか。

酒井氏： 「話し方」の授業がとても印象に残っている。人前に出て話すのが得意な人はあまりいないと思うが、仕事になるとそんなことは言っていられない。当時は嫌だったが、今になって大切さがわかる授業。きれいにしゃべるとい話し方については社会人になって教えてもらえるものではない。人前で話すというのは場数が大事なので人前で話す機会は今のうちからたくさん取るべき。

児玉氏： 私もその授業は良いと思う。年を重ねるとありがたみに気が付ける。

矢野： ホテル科では電話対応の授業を取り入れている。電話の出方により企業の印象も変わってしまう。

酒井氏： 電話対応もどの業界でも通用する。

児玉氏： 電話は練習すればするだけ上手になる。是非取り入れるべき。

只隈氏： 「ホスピタリティ」が印象的。これもどの仕事につくにも大切な部分である。

ちなみに鉄道科の「ディベート入門」とはどのような内容か。

矢野： お題に対して 2 チームに分かれてディスカッションをする。最終的には裁判所で実際の裁判を見る授業である。

立石： 鉄道科は特に人前で話すのが苦手な学生が多い。

就職活動に向けても人前で話すというのは重要なので取り入れている。

只隈氏：現場においても仕切れる人、苦手な人は本当に顕著に出てしまう。

上手な話し方のできる人の手本を学生に示すことで学生も学べるのではないか。

酒井氏：人前で話すことは苦手な人が多いが、とにかく場数を踏むこと。練習することが第一。

私たちも含めて最初から上手に出来る人はなくて、練習したかどうかで学校へのプレゼンの出来も違ってくるので、人前で話す練習は重要だと思う。

ちなみに国内管理者の合格率はどの位か。

矢野：観光 55%、鉄道 54%。全体では 54.5%である。

只隈氏：総管理者の合格率はどの位か。

矢野：現状、年に 1 人程度の合格者である。

立石：1 年時に全員が国内管理者を取るわけでもないので、現状このぐらいの人数になっている。

児玉氏：どの授業も大切だが、取捨選択は必要。昨今、業界でもコンプライアンス対策の話が多い。

学生にとっては難しい内容かもしれないがコンプライアンス、クレーム対策の授業も必要ではないか。

矢野：現状、鉄道では取り入れているので、観光科も検討したい。

立石：JATA という視点から、専門学校生の千葉での就職についてどう思うか。

児玉氏：現時点では各企業が本社での一括採用が多く、会社毎に異なるが支店での独自採用を行っている会社の方が少ないのではないか。企業としては業績がそこまで良くないのに人材が足りず、働き方改革などの影響で残業等の改善にも着手している。

中間層(30代40代)が少なく、年配者と若手との間があるからこそ、先程話した「ニュース」による話す力が重要となってくる。

また、企業によっては年配者の方が知識・経験面で優っているので、若手や新入社員には年齢に勝てる力(新しい考え方や発想など)をもっている必要があると思う。

進行矢野が分科会を閉会した。

[分科会] テーマパーク科

進行石神が分科会を開会した。

当分科会の役割確認。2019 年度のカリキュラムと軸とし、2020 年度カリキュラム検証、企業実習、学科状況を踏まえながら進行開始。

1. 2018 年度教育課程編成委員会振り返り

- ・2020 年度観光業界として東京オリンピック・パラリンピックの各企業の取り組み共有。
- ・(株)東京ドームでは 2011 年以降、社内研修制度の見直しを行っている。勤務前に全員がお叱りやご意見などの内容が確認できるようにしており、一層の環境整備を実施。
- ・学内ではサービス介助士という資格を学生全員が必須受験とし、障害やバリアフリー等の知識をつける勉強を行っている。今後は LGBT 等いろいろな方がいることを学生に学ばせる。
- ・今後業界としては労務・人事、数値管理。ビジネススキルとして「B to B」や「B to C」の考えなど、幅広いスキルの必要性。

石神：テーマパークではやはり「楽しさ」が募集の大きな要素となっている。楽しさを求めてくる学生が多い中、就職後に必ず必要となるアルバイト管理等に必須な労務・人事等の数値を学ぶ授業を毛嫌いする学生も多くバランスが難しい。

上村氏：専門学校出身の学生も多くいるが、接客が大好き！という社員が多い。しかし、社会人として必要なスキルは知っておく必要があると考えており、人事も絡めて全員へ行っている。権利と義務の中で義務を果たすことで、権利主張ができることなど、社会の成り立ちの大枠を教えるのはどうか。当社の総合職だが、身近な問題を例題として財務について学ぶ研修を行ったが非常に良く、理解が深まったと感じている。

2. 2019 年度主な授業及び行事

石神：2 年間のカリキュラムの中で input→output していく必要があり、それに対応できるカリキュラム編成を行っている。またトラベル系の学科から独立したこともあり、旅行要素が多く入っていたものを数年かけて変更し、現在はテーマパーク要素の強いカリキュラムとなっている。

上村氏：「ボイストレーニング」は非常に良い科目だと思う。当社でもアナウンスの発声方法等を学ぶ研修を行ったが非常に好評だった。

茂野 : 実習等で張り切りすぎて喉をつぶす学生も多く、有益な授業である。

・芸術鑑賞

成果発表の参考演目として今年度4月にジャグリングやマジックを中心とした演目「GEAR」を鑑賞した。

・2年次成果発表

2/15(土)に向け学生主体で作品を作っている。まだ完成度は高いとは言えないが、意見を少しずつ出し合い、完成に近づいている。初年度でどこまでできるか今後検証。

石神 : とても積極的で参加意欲の高い学生と冷めた学生の差がある。今の学生は表面的。

成果発表は2年間の集大成だが、全体的な傾向として就職活動が終了した2年生は、意欲低下傾向にある。企業の方に見ていただくことでやる気も出ると思うので是非見に来ていただきたい。

上村氏 : 是非参加させていただきたい。

当社では研修→フィードバックを徹底している。フィードバックでは些細なことでも良いので褒めることとしており、OJTに入れ込むことで、自然と褒めることが出来るようになってくる。

日本人は褒めることが苦手。アルバイトトレーナー制度の中で「褒める」ゲームを取り入れ、褒めることに慣れていく。

また、別の研修では部下を褒める言葉を30個書く！という課題がある。実際に全て書ける人は非常に少ないのだが、全て埋めなければいけないというものである。部下を褒める「褒め言葉」を持つことはとても大切。

・地域貢献行事

8/27(土)・12/7(土)小学生職業体験「キッズ・ハッピープロジェクト」に必須参加。

上村氏 : 子供と話す機会があることは非常に良いこと。

アルバイトでも一人っ子が多いからなのか、子供の扱いを知らない。

3. 2020年度カリキュラム案

・バリアフリー:2018年度教育課程編成委員会でお話し頂いた内容を反映

・パークオペレーション:2年生のカリキュラム内容を一部変更

2018年度申請の職業実践専門課程テーマパーク科について、認可頂いたことを報告して閉会。

[分科会] エアライン科・語学集中科・デュアル科

1. 2019年度就職状況

エアライン科 38名中 29名内定 内定率 76%(7/31現在)

旅客サービス系 18名

旅客ハンドリング系 9名

他分野 2名(ホテル・介護)

湊 : 就職活動が例年と比較して早まっており、1年時に内定を頂いている学生がいる為、内定を頂いている学生の卒業までのモチベーション維持並びに、就職活動中の学生のケアが課題となっている。

山田氏 : 内定した学生に対して、卒業までの間に企業から課題を出す事は可能であるか。

湊 : 学生のモチベーション維持やスキルアップの為に、是非実施して頂きたい。

2. 2019年度カリキュラムを前期実施してみたの状況と課題報告

・時事研究Ⅰ・Ⅱ(1年前期・後期)

目的:最近のニュースを知る、自分の意見を持つ、ディスカッションの仕方を身に付ける

方法:その週の新聞からテーマを選出→記事の共有→ディスカッション→発表

成果:別紙参照

<委員意見>石井氏・岸本氏・山田氏

新聞やテレビを見ることが少なくなり、好きな事をピンポイントに検索する事で、その他の情報に疎くなって

いる。コミュニケーションに関しても携帯などで済ませてしまう時代なので、本授業のようにディスカッションによる他者との対話や自身の考えを発言する場を設ける事で、今後の就職活動並びに就職後の人間関係を上手く築く力が身に付くのではと考える。

3. 2020年度カリキュラムを策定するにあたっての意見収集
2019年度履修科目を配布の上意見を頂く。

〈委員意見〉石井氏・岸本氏・山田氏

現状のカリキュラムで問題無し。

次年度に関しても2.の内容を盛り込んだカリキュラムを作成し、学生の中に社会人としての心構えが持てるよう、ヒトとしての成長を促す授業を増やす事が学生・企業共に望ましいと考える。

4. その他

栗原 : グランドハンドリング業務を目指す学生への授業において、どのような知識を身に付けている事が企業として望ましいか。

山田氏 : 専門学校として、目指す職種に関する専門的な授業は必須。

しかしながら、自身の考えが言えない・行動が出来ない学生が増加しているため、人間力(明確なビジョン・コミュニケーション能力)を補い強化していく授業を取り入れる。

湊 : 現在、CAコース限定で心と体を健やかに綺麗に成長させるための『美育』授業(天声人語の書写・ヨガ等)を行っている。他コースにも取り入れることを検討。

・入学前教育として、「英文法授業ノート」の導入

以上